

## 01 仕事に慣れるまでどのくらい？

おおよそ半年ほどだと思います。各種システムに慣れるのにも少し時間が必要ですが、職場の皆さんが丁寧に教えてくださるので心配する必要はありません。

## 02 定時退庁できる？

定時退庁しやすい職場だと思います。所属している課によっては忙しい時期もありますが、私の場合、残業は月に3～4時間ほどで、ワークライフバランスも推進されていると感じます。

## 03 外勤や出張の機会はありますか？

月に3回ほどあります。食育のイベント、食品表示や肥料生産業者への立入検査など、消費・安全部は消費者との距離が近いので現場に行く機会は多いと感じています。

## 04 職場の雰囲気は？

東

上司はこちらのことを気にかけてくださる方が多く、同期の職員とも話しやすい雰囲気なのでメリハリをもって仕事に取り組めます！

近

穏やかな方が多く、分からないことがあればすぐに聞きやすい職場です。

中

黙々と仕事されている方もいらっしゃると思いますが、困っていると皆さんが声をかけてくださる和気あいあいとした職場です！

本パンフレット作成職員にアンケートを実施しました。

## 職員のQ&A

東

東海農政局

近

近畿農政局

中

中国四国農政局

## 05 就職前後で感じたギャップ

東

入省前は、システマチックなイメージを持っていましたが、意外と上司のキャラクターの影響を受ける組織であることに驚きました。

近

全国の農林水産省職員と課や局を超えて交流する機会があります。このパンフレットが一例です。

中

年齢層は高めですが、とてもアットホームな雰囲気です。

## 06 管轄地域の魅力（食べ物）

東

名古屋めしとして有名なひつまぶしやみそカツ、手羽先に天むすなど、どれも美味しいものばかりです。

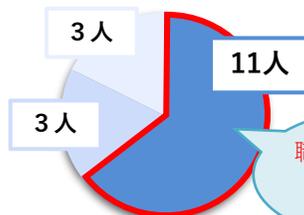
近

ブランド牛や京野菜、南高梅、みかんなどが有名です。

中

かんきつ類やキウイ、ぶどう、すいか、梨、桃など果物が豊富です。

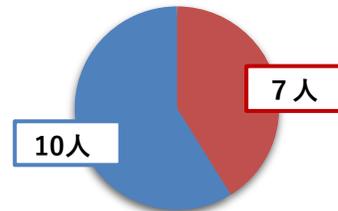
## 07 有休をどの程度取得しましたか？



職員の約7割が年に11日以上有休を取得！

■ 11日以上 ■ 6日～10日 ■ 1日～5日

## 08 大学での専攻は？



■ 文系 ■ 理系

## 09 消費・安全部の魅力

食の安全に関する正しい知識の普及、食品表示の信頼確保、農薬の適正使用や肥料の品質確保、家畜及び養殖の衛生対策など、幅広く国民の食生活を守るといふ使命感を持って仕事に望めるところが魅力です。

## 10 印象に残っている仕事

食品表示の不適正が発覚した際、事業者からの聞き取りなどで原因や状況を確認し、指導を行う中で、従業員が自主的に話し合うようになるなど確認体制が徹底され最終的に店として良い方向に向かうようになったと事業者から感謝されたことです。

## 11 消費・安全部の志望理由

前職では、施設の食品安全対策や水産加工会社の輸出のお手伝いをしていましたが、国民全体にかかわる大きな仕事をしたく、志望しました。  
(社会人採用)

## 12 おすすめの受験対策法 〈新卒採用〉

行政

大学3年生の10月頃から対策を始め、練習問題を繰り返し解くようにしていました。定期的に模試を受け、習熟度を確かめることも大切だと思います。

技術

過去問と解説がセットになったテキストを解いていました。配点をきちんと考えて勉強時間の配分を決めると良いと思います。大学3年生の5月から勉強を始めました。

## 13 おすすめの受験対策法 〈社会人採用〉

行政

面接では、転職理由、これまでのキャリア、志望動機、自身の強み・弱みや過去の失敗とその対策等質問を想定し、自分のスキルがどのように役立つかを簡単に説明できるよう準備しました。

技術

一度社会に出てもまれていることは、最大の強みです。私の場合、前職で食品安全にかかわっていたので、これを強みとしてアピールすることを心がけました。

## 14 パンフレットの読者へひと言！

まずは業務説明会に参加をしてみてください。そして、説明を聞いて「働いてみたい」と少しでも思われたら、ぜひ採用試験を受けてみてください。

このパンフレットを見てくださった皆さんと、消費・安全部で共に働ける日を楽しみにしています！